

ARIBの動き

DTV Workshop 2007が開催される

恒例の国際放送機器展(InterBEE)にあわせて本年も去る11月20日、社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)主催・ARIBデジタル放送技術国際普及部会普及活動作業班(DiBEG)後援により、「DTV Workshop 2007」が幕張メッセ国際会議場で開催されました。

DTV Workshopは日本のデジタル放送技術を海外からの来場者に紹介するため、英語同時通訳つきで行われました。

セミナーは11月20日午後から開催され、DiBEGから高橋氏がISDB-Tの海外普及活動について講演を行ないました。

聴講者は、開催者の予想を大きく上回る延べ約400名以上の参加を得て盛況のうち終了しました。



DTV Workshopの様子

[講演概要]

	講演タイトル	講演者
1	地上放送のデジタル化について	佐藤 好英 氏(総務省)
2	ISDB-T の海外普及活動	高橋 泰雄 氏(DiBEG)
3	地上携帯型受信の現状と将来	
3. 1	ワンセグ用端末機器の普及状況	齊藤 彰 氏 (JEITA)

3. 2	ISDB-Tmmの目指す社会	岡村 智之氏 (フジテレビ)
3. 3	デジタルラジオの現状と今後の展開	黒田 徹氏 (DRP)
4	将来の高臨場感放送を目指した超高精細および立体テレビジョンの研究開発	菅原 正幸氏 (NHK)

## 電気通信・放送 行政の動き

### 国際電気通信連合 (ITU) 2007年世界無線通信会議 (WRC-07) の結果 【平成19年11月16日総務省報道発表から】

国際電気通信連合 (ITU) の2007年世界無線通信会議 (WRC-07) が、10月22日 (月) から11月16日 (金) までの4週間、ジュネーブ (スイス) で開催されました。同会議には164か国、約2800名が参加しました。我が国からは総務省、電気通信事業者、放送事業者等を含め約80名の代表団を構成し、参加しました。

主要議題の審議結果は、以下のとおりです。

- 1 IMT (第3世代及び第4世代移動通信システム) への将来の周波数確保
- IMT (第3世代及び第4世代移動通信システム) に使用する新たな周波数の確保を検討する議題

#### 【結果】

- ◎以下、1)~4)の計428MHz幅が確保された。(※現在我が国で携帯電話に割当済の帯域幅は333MHz)
  - 1) 3.4-3.6GHz 200MHz
  - 2) 2.3-2.4GHz 100MHz
  - 3) 698-806MHz 108MHz
  - 4) 450-470MHz 20MHz
- ◎上記のうち、各国が使用したい周波数で今後IMTを実現
- ◎我が国としては、1)と3)を中心に利用を推進する考え (但し、3)はその一部)。

#### (参考)

- 1) 2010年以降の実現が期待される第4世代移動通信システム用に3.4GHz帯が利用可能になったことは、我が国の第4世代移動通信システムの実現に確固たる足場を築くもの
- 2) 本会議において世界で100か国以上の国が、3.4GHz帯を移動通信システムに使用することを表明
- 3) 今後、ITUにおいて国際的な標準化活動が本格化する見込み
  - ※ 第4世代移動通信システムの標準化を行うITUの研究委員会(SG5)の議

長に、先般、橋本明氏（NTTドコモ）が就任

4) 国内的にも標準化活動を強化

※我が国の国際競争力の強化のため、標準化等の推進方策を情報通信審議会で審議中

5) 将来の実用化に向けてメーカーの機器開発投資が促進される見込み

6) 光ファイバ並みの映像配信が可能となることから、今後新しいコンテンツの創造にも期待がかかる

2 2.5GHz帯について衛星通信と地上の移動通信のどちらを優先するか

- 世界的に地上の移動通信の需要が高まっている中で、我が国を含む数か国では、衛星を利用した携帯電話等で使用しているため、衛星の利用を制限するかどうかについて検討する議題

**【結果】**

- ◎世界的には地上の移動通信を優先し、衛星が出す電力を厳しく制限することとなったが、我が国の衛星（N-STAR）は非常災害時の移動通信に使用されていることから、例外的な扱いとすることが決定された。

3 地球探査衛星のために携帯電話等の電波を抑えることの是非

- 今後運用が予定される地球探査衛星を地上での使用電波から保護するため、携帯電話等の電力を抑えるかどうかを検討する議題

**【結果】**

- ◎1.4GHz帯（我が国では携帯電話に使用）：  
厳しい電力制限値を強制しようとする動きがあったが、強制力のない推奨値とすることが決定された。
- ◎10.6GHz帯（我が国では放送中継用無線局に使用）：  
同上

4 航空管制用の周波数の確保

- 航空管制、航空用データ通信等に使用する周波数の確保を検討する議題

**【結果】**

- ◎我が国が提案していたVHF帯（112-117.975MHz）及び5091-5150MHz帯を世界共通で利用することが決定された。
- ◎なお、我が国が準天頂衛星で使用予定の5000-5030MHz帯についても航空用データ通信への分配が検討されたが、結局、対象外とすることが決定された。

5 短波ラジオへの周波数確保の是非の検討

- 短波帯の周波数分配を見直し、短波ラジオ用に新たな周波数を確保するか否かを検討する議題

【結果】

◎追加分配しないことが決定された。

6 次回の世界無線通信会議の議題

○2011年に予定されている次回世界無線通信会議（WRC-11）の議題を検討する議題

【結果】

◎我が国が提案した以下の次回会合（WRC-11）議題4件が全て採択された。

- 1) 衛星望遠鏡で観測したデータを地上に転送するための周波数をいかに保護するかを検討する議題  
(JAXA) 【37-38GHz】
- 2) 海水面の流速、流向を観測するための短波海洋レーダ用周波数の確保を検討する議題  
(国土交通省港湾局) 【3-50MHzの一部】
- 3) 衛星を用いた航空管制用通信を優先扱いする方法について検討する議題  
(国土交通省航空局) 【1.6GHz帯】
- 4) 国際宇宙ステーションに搭載される地球探査用センサーや日・米・加・欧共同の電波天文観測計画のための周波数利用を検討する議題  
(JAXA・国立天文台) 【275-3000GHz】

※（）内は関係機関、【】内は対象周波数帯を示す

なお、詳細は、([http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/071116\\_11.html](http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/071116_11.html))を参照して下さい。

編集後記

先日、高円寺に行きました。駅前に大きな商店街があり、その中を歩いていったのですが、個人商店が軒を連ねていて、狭い道に人と車と自転車があふれんばかりでした。

近頃は、買い物といえば、新宿や渋谷といった大都会か郊外のモダンなモール形式の商店街が普通になっており、近頃では、個人商店が集まった商店街に行く機会がなくなっていました。

久しぶりに、なんとも懐かしい風景を見た気がします。